

平成29年度行政事業レビューシート (厚生労働省)

事業名	造血幹細胞移植医療体制整備事業			担当部局庁	健康局	作成責任者	
事業開始年度	平成25年度	事業終了 (予定)年度	終了予定なし	担当課室	難病対策課移植医療対策推進室	室長 井内 努	
会計区分	一般会計						
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律		関係する計画、 通知等	造血幹細胞移植医療体制整備事業の実施について			
主要政策・施策	-		主要経費	社会保障			
事業の目的 (目指す姿を簡 潔に。3行程度以 内)	3種類の移植術(骨髄移植、末梢血幹細胞移植及び臍帯血移植)のうち、患者の疾病の種類やステージに応じて最適な移植術を選択し実施できる体制を整備する。						
事業概要 (5行程度以内。 別添可)	白血病等に対する造血幹細胞を用いた早期治療(採取の積極的実施、緊急の移植受入)の実践を行うとともに、造血幹細胞移植に関する人材育成、治療成績の向上及び研究を促進させるための基盤整備を図る。 補助率:定額						
実施方法	補助						
予算額・ 執行額 (単位:百万円)		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度要求	
	予算 の 状 況	当初予算	164	249	249	242	255
		補正予算	-	-	-	-	-
		前年度から繰越し	-	-	-	-	-
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-	-
		予備費等	-	-	-	-	-
	計	164	249	249	242	255	
	執行額	93	168	207			
	執行率(%)	57%	67%	83%			
当初予算+補正予算に対 する執行額の割合(%)	57%	67%	83%				
平成29・30年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	29年度当初予算	30年度要求	主な増減理由			
	移植対策事業費補助金	242	255	造血幹細胞移植後患者長期フォローアップ体制構築事業の増額要求等			
	計	242	255				

成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	26年度	27年度	28年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 29 年度	
	コーディネート期間における採取行程日数の短縮	コーディネート期間における採取行程日数の短縮	成果実績	日	77	75	72	-	-	
			目標値	日	76	77	77	-	77	
			達成度	%	98.7	102.7	106.9	-	-	
根拠として用いた統計・データ名 (出典)	(公財)骨髄バンク調べ									
活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	26年度	27年度	28年度	29年度 活動見込	30年度 活動見込	
	拠点病院1施設あたりの他の医療機関から紹介された患者を受け入れ、造血幹細胞移植を実施した件数	活動実績	件	23	32	40	-			
		当初見込み	件	8	23	32	40			
単位当たり コスト	算出根拠			単位	26年度	27年度	28年度	29年度活動見込		
	造血幹細胞移植拠点病院1か所あたり補助金額=X: 「造血幹細胞移植医療体制整備事業補助金」/Y: 「造血幹細胞移植拠点病院数」		単位当たり コスト	円	18,536,600	18,627,666	22,998,222	26,934,000		
			計算式	円/箇所	92,683,000/5	167,649,000/9	206,984,000/9	242,406,000/9		
政策評価、経済・財政再生アクション・プログラムとの関係	政策	I-5 感染症など健康を脅かす疾病を予防・防止するとともに、感染者等に必要な医療等を確保すること								
	施策	I-5-3 適正な移植医療を推進すること								
	測定指標	定量的指標			単位	26年度	27年度	28年度	中間目標 - 年度	目標年度 - 年度
			実績値	-	-	-	-	-	-	-
			目標値	-	-	-	-	-	-	-
		定性的指標	目標	目標年度	施策の進捗状況(目標)					
				施策の進捗状況(実績)						
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係									
	白血病等に対する造血幹細胞を用いた早期治療(採取の積極的実施、緊急の移植受入)の実践を行うとともに、造血幹細胞移植に関する人材育成、治療成績の向上及び研究を促進させるための基盤整備を図る。このような体制整備を進めることで、コーディネート期間が短縮され、待機中の死亡患者数が減少する等造血幹細胞移植医療の全体の底上げが図られることになり、結果、適切な移植医療の推進に繋がるものとする。									
	改革項目	分野:	-	-						
アクション・プログラム (第一階層)	KPI (第一階層)			単位	計画開始時 - 年度	28年度	29年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度	
		成果実績	-	-	-	-	-	-	-	
		目標値	-	-	-	-	-	-	-	
		達成度	%	-	-	-	-	-	-	
	アクション・プログラム (第二階層)	KPI (第二階層)			単位	計画開始時 - 年度	28年度	29年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度
			成果実績	-	-	-	-	-	-	-
目標値			-	-	-	-	-	-	-	
達成度	%		-	-	-	-	-	-		
本事業の成果と改革項目・KPIとの関係										

事業所管部局による点検・改善

事業所管部局による点検・改善			
	項目	評価	評価に関する説明
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	造血幹細胞移植拠点病院を整備することにより、移植を必要としている患者に対して、適切な時期に、適切な種類の移植を提供できる体制を構築することで、治療成績の向上が図られることから、広く国民のニーズがあり、国費を投入して行うべき事業である。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	国の主導において拠点病院の整備を行うことにより、造血幹細胞移植医療の底上げを図り、治療成績の向上を図るものであることから、国が実施すべき事業である。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律」において、骨髄及び末梢血幹細胞の採取に係る医療提供体制の整備に必要な施策を講ずるものとしてされており、優先度が高い事業である。
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	-	
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	無	-
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無	-
	受益者との負担関係は妥当であるか。	○	拠点病院の整備を行うことにより、造血幹細胞移植医療の底上げを図り、治療成績の向上を図るものであることから、負担関係は妥当と考える。
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	造血幹細胞移植拠点病院1カ所あたりに最低限必要となる経費であるため、妥当と考える。
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-	-
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	造血幹細胞移植拠点病院1カ所あたりに最低限必要となる経費であるため、妥当と考える。
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	△	不用の要因は、一部経費が当初見込みを下回ったためである。
繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-	
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	適宜実績報告を見直し、効率化できる部分は実施方法等を見直している。	
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	成果目標よりも上回っており、見合っている。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	-	-
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	昨年度実績よりも上回っており、見合っている。
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	指定された造血幹細胞移植拠点病院においては、積極的な骨髄採取や地域の医療機関への研修などを実施しており、治療成績の向上及び研究の促進が図られている。
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	○	
	所管府省名	事業番号	事業名
	厚生労働省	0170	移植対策(造血幹細胞)事業
			移植対策(造血幹細胞)事業は、骨髄移植等のあつせん、普及啓発に関する事業、臍帯血の調整・保存等を行う事業であり、当事業とは適切な役割分担を行っている。
点検・改善結果	点検結果		造血幹細胞移植拠点病院を整備することにより、治療成績の向上及び研究の促進が図られ、疾病の種類やステージなど患者の状態に合わせた適切な治療を受けられるようになるため、広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業である。 また、支出先についても、指定された造血幹細胞移植拠点病院に限られるため、効果的かつ効率的な事業の実施ができている。
	改善の方向性		事業を開始して4年目であるため、更なる事業内容や支出経費等の精査を行い、不用額を少なくするよう適宜見直しを行う必要がある。

外部有識者の所見

点検対象外

行政事業レビュー推進チームの所見

現
状
通
り

白血病等に対する造血幹細胞を用いた早期治療の実践を行うとともに、造血幹細胞移植に関する人材育成、治療成績の向上及び研究を促進させるための基盤整備を図るために必要な事業であり、引き続き、必要な予算額を確保し、適正な執行に努めること。

所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況

現
状
通
り

-

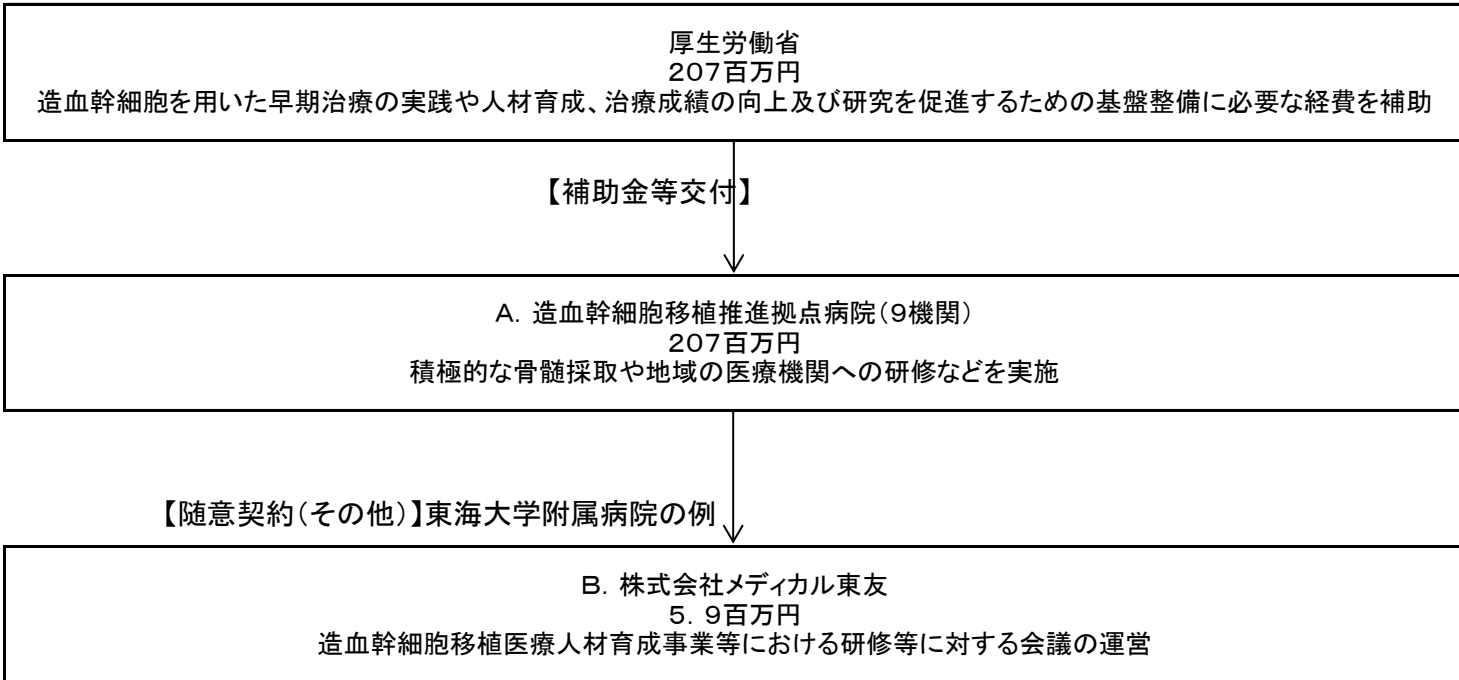
備考

-

関連する過去のレビューシートの事業番号

平成22年度	-	平成23年度	-	平成24年度	-		
平成25年度	-	平成26年度	160	平成27年度	169		
平成28年度	169						

※平成28年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。



資金の流れ
(資金の受け取り先が何を
しているかについて補足する)
(単位:百万円)

